

みわ由美

前県議会議員(3期12年)

三輪よしみ

憲法といのち輝く県政を



来年4月

前回の悔しさをバネに 議席回復を!

1955年京都市生まれ。立命館大学産業社会学部卒業。県議(3期)、文教常任委員・県土整備常任委員、県都市計画審議会委員など歴任。現在、党松戸市災害対策本部長。趣味:ギターの弾き語り。

HP、ツイッター
みわ由美 (検索)

11月16日 日本共産党を伸ばして暮らし守ろう!



市議会議員 高橋たえ子 市議会議員 うつの史行 市議会議員 高木 健 市議会議員 山口 正子 市議予定候補 平田きよみ 市議予定候補 浦野 真

まつど民報

2014年9・10月号外 日本共産党松戸・鎌ヶ谷地区委員会
松戸市千駄堀1810-2 ☎(349)1544
日本共産党の活動と見解を紹介します。

《市議団と共同し実現を》
●コミュニティバス運行を
●ブラック企業は根絶を
●小中高校に直ちにエアコンを
●住宅リフォーム助成制度を

安倍政権へレッドカード退場を!

暴走に怒りの声



森田県知事は、集団的自衛権は「国が判断すべき」との容認。毎年靖国神社を参拝しています。

消費税についても「社会保障の財源にふさわしい」と値上げを容認。



こんな森田知事に対し、**自民、公明、民主、みんなの各党派**はすべての議案に賛成。まるで「翼賛議会」。右へならえの安倍政権応援団です。日本共産党は安倍政権の暴走に反対し、対案を示し市民と共同してがんばります。



党派をこえた「消費税増税中止を求める松戸の会」のみわ前県議



みわは 憲法を守り、戦争する国づくりノー、消費税増税・社会保障改悪を中止させます。

エーツ 県議が海外視察、行き先はカジノ!

議員のあり方が問われているときに、昨年9月、千葉県議会議員の海外視察を復活。反対したのは共産党だけです。

今年1月、視察先はシンガポールの世界最大級のカジノ。千葉に賭博(とばく)場はいりません。



みわは 海外視察はキッパリ中止。議会と政治のムダづかいをただします。

県政は

「暮らし満足度日本一」というのに福祉予算は最下位

知事が掲げるスローガンは「暮らし満足度日本一」。しかし県の福祉予算は全国最下位。一方で県は、巨大道路整備など県内財界の要望を丸呑みした「新総合計画」をまっしぐらです。

| | |
|--------------------|-----|
| 社会福祉費 (人口1人あたり) | 47位 |
| 老人福祉費 (65歳以上1人あたり) | 46位 |
| 児童福祉費 (17歳以下1人あたり) | 45位 |



みわは 保育所・特養ホームを増設し子育て・介護を応援します。



「めざせ待機児ゼロ @松戸」の市長交渉(右端がみわ前県議)

巨大開発の浪費やめ県民の暮らし第一に

走る政治家

日本共産党
みわ由美

草の根から住民とともに 政治を動かす

中3まで窓口
無料化した
医療費(松戸)



県の責任で
国保料1万円
引き下げを

大震災の3ヶ月後石巻へ——崩れた家と瓦礫の街で、救援物資お届け隊としてボランティアに。



私はこの3年半、無我夢中で住民の苦難解決に働いてきました。子どもや若い世代、町会、時には市と共に、県・国・企業を動かしてきたこの経験を生かして頑張ります！
みわ由美

国保料引き下げ署名をお願いします
するみわ由美。(松戸駅前)



水害と闘う

「簡易トイレほしい」「朝から何も食べてない」

昨年の台風26号は、床上床下浸水の大被害。市議らと現場に直行。携帯で行政に、簡易トイレや消毒の手配をしました。一日たっても被災地は孤立。党员ボランティアによるおにぎり豚汁や千葉土建組合員による畳あげに、住民は涙声で「助かりました」と…。

緊急の市・県交渉で、大型ゴミ無料回収と県市川ポンプ場の整備を実現させましたが、抜本的な対策は急務です。

安全な街づくりに全力

死亡事故多発の国道6号に信号と横断歩道

事故多発の馬橋弁天歩道橋下。「急こう配の歩道橋は渡れません」と高齢者からの悲痛な訴え。共産党も加わった改善求める「会」が発足。運動が急速に広がり署名は2286筆に。現地調査には車いす8台約50人が参加し再三要望。とうとう県が設置を約束。7ヶ月間で、現場の声が政治を動かしました。



地域が県動かす



小金原の殿内交差点と支所前交差点
がスクランブルに

住民・行政・警察と殿内交差点現地調査するみわ前県議

運動実り、喜びの声。
新松戸ダイエー前も、スクランブル化決定！

常盤平駅南口にエレベーター約束

みんなの署名が大きな力に。北小金駅や新八柱駅(12月予定)へのエレベーター設置も進みました。



放射能から
子どもを守る

測定に100人が
参加した公園も。
マイクを持つ
みわ前県議



地域ぐるみの“測定、が
市、県、国 動かす

2011年秋「私、ガンになりたくないの」(公園で測定器を持つ小6女子)。不安が広がる中、のべ3000人の市民と約3000カ所の放射線量を測定。結果をマップにして地域に配布し、市が後に看板を掲示。

測定結果を環境省に提出

7割以上の地点で当初基準を超える汚染データを国に提出。国会では志位委員長が質問。お母さんたちは「待てない！あさって運動会すぐ除染して」(3日間で署名1229筆)と。



環境省への除染要望交渉。測定結果を提出するみわ前県議。

除染の先頭に



みわ前県議らは、スコップ担ぎ東奔西走。自主除染は、若い世代、町会、民間経営者にも広がり署名も山に。その後、国が除染を約束し、市の除染も本格化。

子どもの甲状腺エコー検査を実施

健康への影響を心配する声に応え、市が検査への助成を実施。国や県こそ責任を持って実施すべきです。